

■下河辺淳 プランナーを自称する国土計画官僚として、全国総合開発計画ほかを主導し続け、「御大」と呼ばれるに至った。

しもこうべあつし

関東大震災・1923＝

千葉県市川市で、常陸国佐竹氏に仕える武士をルーツとし、大坂で代々町医者の子ながら、久原鉱業大瀨鉱山に就職した下河辺収の長男に生まれる。出産予定日に母竹子が大地震に遭遇し、体調が異常になって、1か月もあとに過熟児となって誕生、虚弱体質のため、徹底的に保護され、父が日立工場の技師になったため、一家で日立村に転居。田舎を嫌う母が、下河辺家の本籍を、自分の結婚前の東京本郷に移し、度々、下谷区黒門町の母の両親に預けられ、江戸っ子として育つ。

満州事変・・・1931＝8歳：日立町立第四尋常高等小学校に入学。

五一五事件・1932＝9歳：

二二六事件・1936＝13歳：茨城県立水戸中学校に入学、水戸学の伝統ある教育を受けたことが、その後の思考に強く影響、

日中戦争始・1937＝14歳：

大政翼賛会・1940＝17歳：突然、身長が10cm伸びるとともに、元気になり、以後、スポーツに没頭し、成績は目立たない。

日米開戦・・・1941＝18歳：

・・・1942＝19歳：水戸高等学校の、医者を経がせようとする祖父の希望で、ドイツ語の理科乙類に進学。

創価学会検挙1943＝20歳：日立製作所鑄造部長まで上った父が退職。飛行兵徴集は延期。祖父が死去して医者にならなくて済むと、

年金+総武装 1944＝21歳：戦局悪化で初めて書類審査になった入学試験で、希望が集中して倍率が高い建築を選び、結果として皆が避けたため悠々と合格して、**東京帝国大学第一工学部建築学科に入学。**

敗戦・・・1945＝22歳：アメリカ軍による東京空襲の焼夷弾焼失を地図に落とす作業で、悲惨な現場を知ったのが原体験。肺結核・肋骨カリエスの手術で兵役免除も、九死に一生。敗戦となり、高山英華の下で戦災復興都市計画に参画、新憲法施行・1947＝24歳：建築史助教授太田博太郎の助手で、入院中見舞いにも来てくれていた玉生千穂子と結婚。**卒業し、総理庁技官となり、戦災復興院建築局監督課兼総裁官房技術研究所に勤務。**

樞東裁判決・1948＝25歳：建設院建築局庶務課兼第二技術研究所に異動し、**建設省設置法に基づき、建設技官となる。**

三大事件・・・1949＝26歳：建設省住宅局兼建築研究所に異動し、

朝鮮戦争始・1950＝27歳：建築研究所第一研究部研究員に昇任。

独立回復・・・1951＝28歳：

メーゴ-事件・1952＝29歳：**自ら希望して、国土計画を所管する経済審議庁計画部計画第二課へ配置転換、飛躍的に変身し始める。**

55年体制始・1955＝32歳：計画第一課に移ったところで、経済審議庁が経済企画庁となり、

国連加盟・・・1956＝33歳：建設省参事官付となつて、**建設省に復帰し、**

なべ底不況・1957＝34歳：計画局総合計画課係長に昇任し、各種の総合開発計画に関与し始める。大臣官房参事官を併任、

インフレーション・1958＝35歳：課長補佐に昇任、

美智子妃・・・1959＝36歳：大臣官房調査官併任となる。

安保闘争・・・1960＝37歳：

タイタイ病始・1961＝38歳：計画局地域計画課計画官に配置転換。**経済企画庁総合計画局局長大来佐武郎から勧誘されて、**

全国総合計画1962＝39歳：農水省農業技術研究所住居管理室長と跡見女子短期大学教授を務めていた妻千穂子が工学博士になった年、***「工業地の立地条件～計画単位及び必要施設に関する研究」で工学博士となり、日本都市計画学会石川賞(論文調査部門)受賞後、経済企画庁に出向し、総合開発局調査官に任命され、新産業都市建設促進法に続いて、'国土の均衡ある発展'を謳って、戦後の原点になった全国総合開発計画(通称「全総」)の策定に携わる。**新産都市に全国から44地域もの立候補を、13地区に絞って指定、その差配で一躍名を知られる。****

TV宇宙中継始1963＝40歳：水資源局水質保全課課長を兼務後、総合開発局調査官に任命。

東京リビウク 1964＝41歳：**総合開発局開発課課長に任命され、局の所管業務すべてを差配できるようになり、**

いざなぎ景気1966＝43歳：地域開発制度調査会議設置とともに、**全国総合開発計画(通称「新全総」)作業開始、**

美濃郡都知事1967＝44歳：総理府1968年十勝沖地震対策本部員、

震ヶ間ビル・1968＝45歳：日本ユネスコ国内委員会からの委嘱で、地盤沈下に関する国際シンポジウム委員会幹事を務めた後、総合開発局調査官に任命され、経済開発計画打ち合わせのため、復帰前の沖縄に出張し、屋良朝苗代表と面談。**「新全総」が閣議決定。この中で、地域開発のための総合研究機関の必要性を指摘、**

社会開発調査団副団長として欧米歴訪。総合開発局参事官任命後も、沖縄を度々往復し、猪肉下痢事件。

大阪万博・・・1970＝47歳：長官官房総合研究開発調査室長、

ドルショック・・・1971＝48歳：

日中国交回復1972＝49歳：**田名角栄内閣の登場とともに、総合開発局長に昇任するが、「日本列島改造論」の影響による土地投機が問題となつて、「新全総」の総点検、工業再配置法、国土利用計画法策定等に取り組む、**

石油ショック1973＝50歳：各省庁の総合研究所、民間シンクタンクが次々設立されるなか、**総合研究開発機構(NIRA)が発足。**

角栄金脈辞任1974＝51歳：**発足した国土庁に出向して、計画・調整局局長。第三次全国総合計画(通称「三全総」)に取り組み、流域圏居住者が本来の姿であるとの信念を背景に、地方の時代を強く打ち出して、44のモデル定住圏を指定し、**

JALハイジャック・1977＝54歳：***「三全総」閣議決定とともに、国土事務次官に任命され、建築出身者として初めての官僚トップになって、**

革新大敗北・1979＝56歳：中国の国家基本建設委員会からの招聘される。***退官し、総合研究開発機構(NIRA)2代理事長に就任。**

貿易摩擦問題1980＝57歳：中国社会科学院にNIRA資料コーナーを設置、谷牧副総理と会談、人民大会堂ほかで講演するなど、中国との関係が一気に深まり、以後、海南島、上海経済圏、長江、新疆ウィグル自治区、西藏(チベット)自治区総合考察団の団長などとして、**連年訪中し、中国の国土政策に貢献し、**

・・・1981＝58歳：日米知的交流プログラムとして、アメリカの諸大学や諸シンクタンクを訪問して以降、政策関係の一流の人物や機関と交流すべく、**連年のように欧米諸国と交遊したほか、この年から、国際科学技術博覧会協会常務理事も務めるなど、多忙を極めるなか、**

中曽根内閣・1982＝59歳：

・・・1984＝61歳：**国土審議会会長として、'多極分散型国土'を掲げる第四次全国総合計画(通称「四全総」)作業を指導、**

バブル始・・・1986＝63歳：

竹下内閣・・・1987＝64歳：社団法人{長寿文化協会(WAC)}会長に就任。**閣議決定に至り、テクノポリス法、総合リゾート法など、時代に対応する諸政策のアドバイスもし続け、生涯のテーマである{水研究会}を立ち上げる。**

昭和天皇没・1989＝66歳：悪性リンパ腫のため胃の全摘手術を受け、一時退場するも、「水と人のかかわりに関する研究」をまとめ、

ドイツ統一・・・1990＝67歳：**衆参両院で、「国会等の移転に関する決議」が行われ、盛んになる遷都論とその消滅に、翻弄されて行く。**

ソ連崩壊・・・1991＝68歳：**総合研究開発機構(NIRA)理事長を退任、翌年まで特別顧問、NIRAによる世界都市研究会の座長(4年間)、**

バブル崩壊・1992＝69歳：**{北太平洋地域研究センター}理事長などを務めるうち、新設の東京海上研究所に迎えられ、会長兼理事長。**

55年体制終・1993＝70歳：発足した国会等移転調査委員会委員、Jリーグ裁定委員会委員(5年間)以降、ボランティア経済を中心に、民間の施策にも関わるようになる一方、中国、欧米との交流も相変わらずで、

自社さ連立・1994＝71歳：**「戦後国土計画への証言」出版。中国社会科学院世界政治研究所名誉教授。国土審議会会長(4年間)、**

村山内閣事件・1995＝72歳：**阪神・淡路復興委員会委員長として、果敢な采配をしつつ、「五全総」策定のための諸課題を列挙、**

・・・1996＝73歳：日本上流文化圏研究所理事長。**橋本龍太郎と大田昌秀沖繩県知事双方に沖縄問題解決のためのメモを提示、双方が納得して、一気に話が進んだ。官僚としては最高位の勲一等瑞宝章。**

金融破綻・・・1997＝74歳：**国会等移転審議会調査部会長になり、候補地選定についてのメモを提出、**

・・・1998＝75歳：**{長寿文化協会(WAC)}会長を退任。この年にまとまった全国総合開発計画「21世紀の国土のグランドデザイン」(通称「五全総」)に至るまで、自民党内の政権交代から55年体制崩壊後の政権変遷にかかわらず、国土開発・国土行政に力を及ぼし続けたが、**

小泉9.11テロ2001＝78歳：**東京海上研究所を退任し、**

小泉北朝鮮・2002＝79歳：NIRAの大来記念政策研究情報館に{下河辺淳アーカイブス}を開設。

イラク戦争・2003＝80歳：下河辺研究室と有限会社{青い海}を設立し、会長。**衆参両院で「候補地は絞り込めない」として終わる。**

・・・2004＝81歳：**老化が進んで、歩行不自由となり、数多くこなしてきたシンポジウムや講演にも出なくなつて、**

民主党政権・2008＝85歳：財団法人日本開発構想研究所特別顧問の肩書を得て、同研究所に{下河辺淳アーカイブス}を移設。

・・・2013＝90歳：

・・・2014＝91歳：下河辺研究室と{青い海}を閉鎖し、

トランプ登場2016＝93歳：療養先で老衰のため、**没した。**

塩谷隆英「下河辺淳小伝 21世紀の人と国土」